

混沌とした中から

脳とコンピュータ (3)

「心」とは、「意識」とはなんだろうかを考えてみています。動物の中で「心」を持っているのは人間だけだろうといわれています。そのため松果体というものが脳の奥深くにあるのですが、むかしはこの部分が人間だけにあるものと思われていた(実際は脊椎動物にはある)ために、ここに「心」があると思われていたこともあるようです。もちろんそんなことはありませんし、本当は「心」を形作っている器官は無いのかもしれませんが(無いのかもというのは、あるかもしれませんが(脳?))が、はっきりしていないので。ではどこにあるのでしょうかということを書ければいいのですが、このことについて研究しているわけでもないのと考えてみたことだけをちょっとだけ。まず他の動物に「心」があるかないかですが、どちらともいえない気がします。なんだか他の動物に「心」が無いという考え方は、いかにも偉いのは人間だけだ、他の動物に「心」なんかはないんだというおごった考えのようにも思えます。ま、そんなことはどうでもいいのですが、前回にも書いたように、もちろん人間の脳は神経細胞からなり、神経細胞自体は体中に張り巡らされたものですが、1つの刺激に対していろいろな神経細胞に対して信号が伝えられ、その刺激の伝わり方がいろいろな経験の中で変化していつているのではないのでしょうか。刺激といってもそのときに受ける刺激は体全体でいろいろあるでしょうし、内部から発生する刺激もあるでしょう。内部からの刺激は、外部からの刺激に対するフィードバックかもしれません。どちらにしても刺激が伝わっていくに従っていろいろなところに伝えられます。1つの刺激が体全体にいつているのかも知れません。その刺激の伝わり、伝達がフィードバックになり、体自由を動かすことになる。それが「心」であり、「意識」なのかもしれません。参考にした本にもあるのですが、自分から何か「しよう」とすることは「能動」といいますが、本当に「意識」は「能動」なのかということです。前回も書きましたが、動かそうという信号が出るのは動かそうという意識の前らしいのです。ということは、「意識」は「受動」なのかもしれないのです。いろいろな動きがなされていく中で例えば動かそうという意識を持たされているということです。こう考えてみると面白いもので、「われ思う。ゆえにわれあり」といったのは哲学者デカルトですが、もしかすると自分という意識は、体全体の動作の中で、体全体の信号の終着点として思わされているのかもしれないのです。

だんだんここまで来ると哲学だとか精神だとかの領域に入りそうですが、コンピュータの世界に戻してみると、考え方を改めてシステム全体でいろいろなところでそれぞれに処理させ、経験を蓄積し、回路(信号の伝達経路であり、ハード的に変更する必要はない)をある程度自由に変更できるような、それぞれが独立した(つまり集中管理する、勝手に決定権を一手に握るような回路が無いような)システムが出来ればもしかしたら「意識」が発生するかもしれません。しかし、情報も全て回路として、成長することによって記憶するわけですから大変かなとは思いますが。

ついでに、生きていくということはどういうことでしょうか。突然ですが、違った意味で「意識」や「心」を考えるのと同じで、考え方を改めてみると違ったものが生きていくものに見えてきます。「意識」の場合は「能動的」なものでなく「受動的」なものと、全く違った方向から考えてみましたが、「生きていくこと」も一般的な動物的感覚で考えるのではなく、自主的に変化するものと考えてみると、全く生きていくように思えない「地球」や宇宙自体も「生きていくもの」として捉えられないのでしょうか。生きていくもの同士としてじっくり考えてみてはどうでしょうか。(連載終了)

(今週の情報誌から)

○日経エレクトロニクス 9月26日号

特集 デジタル家電独り勝ちの条件

→現在激烈な競争の続くデジタル家電。その中でも独り勝ちする企業がある。デジタル一眼レフカメラ、ハイビジョンビデオカメラ、携帯型音楽プレーヤなど。それぞれには独り勝ちする条件があった。独走する製品、先手を打つ商品戦略、ずば抜けた性能など他に、リスクをとることも必要。カギは新たな競争軸の創造。

○日経パソコン 9月26日号

特集 失敗の力

→世の中パソコンを使っているいろいろな失敗がある。無線LANが繋がらない、インターネットに接続できないなどから、Webサービスメールの失敗、ウィルスなど深刻なものもある。失敗の積み重ねで成長するとは言っても出来るだけ少ないに越したことは無い。

特集 スキャナー活用法

→これまではあまり家庭に普及していなかったスキャナー。でもこのごろはインクジェットプリンタが複合機になり、身近になってきた。デジカメの普及から、これまでの写真、ネガをデジタル化するのにスキャナーは引っ張りだこ。ほこり除去機能から色あせた写真の補正機能など、いろいろな便利な機能がついてきている。いろいろな記録に使わない手は無い。

○日経バイト 10月号

特集 生体認証大ブレイク

→生体認証(バイオメトリクス)はユーザに負担をかけないで本人を認証する。認証としては、顔、指紋、静脈、虹彩などがあるが、それぞれに得意不得意がある。個人に特有といえ、脆弱性は存在し、「なりすまし」への対策は必要となる。

○N+I NETWORK Guide 11月号(今月号で終刊)

特集 DNN&CSを極める

→DNNは、Windowsサーバ上でコミュニケーションサイトを構築するCMSツールのひとつ。無償で利用できるコンテンツマネジメントシステム(CMS)で、提供されているモジュール(ログインや掲示板、イベント表示など)を組み合わせることによってページを作成することが出来る。CSは、Webアプリケーションシステムで、プログなどを組み合わせてコミュニケーションサイトなどを構築できる。